



寺紋  
 ひいらぎ おもだか  
 柊 かこみ 沢瀉  
 おもだか  
 (通称 大関沢瀉)

# 大雄寺報

＝ 第 17 号 ＝

平成 30 年 1 月 1 日 発行

発行所 黒羽山 大雄寺

〒 324-0233

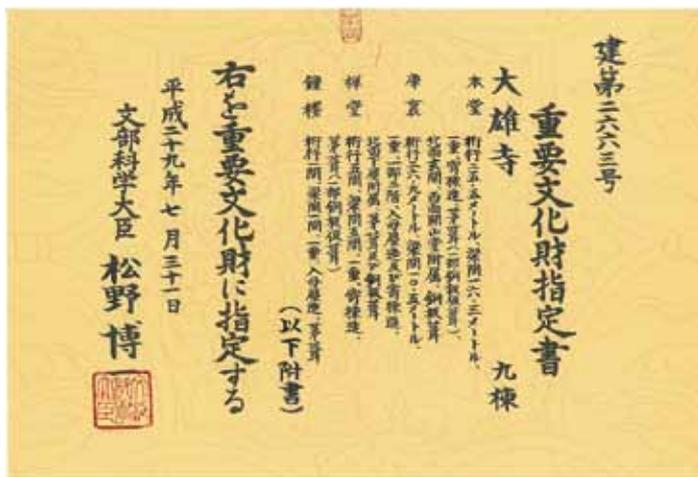
栃木県大田原市黒羽田町 4 5 0

TEL 0287-54-0332

FAX 0287-54-0330

編集発行人：住職 倉澤 良裕

印刷所：タキザワ印刷



\*\*\*\*\* 目 次 \*\*\*\*\*

大雄寺国重要文化財指定関連 …… 2～4 頁  
 花 と 禅 …… 5 頁  
 大雄寺あじさい茶会 …… 5 頁

寺子屋「てらスクール」 …… 6 頁  
 しつもん箱(位牌って何?) …… 7 頁  
 平成30年の主な行事 …… 8 頁

# 大雄寺国重要文化財指定を受けて

住職 倉澤 良裕



この度は、大雄寺の本堂はじめ九棟の建造物（本堂、庫裏、禅堂、鐘楼、経蔵、総門、廻廊三棟）が一括して国重要文化財に指定されました。誠にありがたい評価をいただきました。

大雄寺は、本堂、庫裡、禅堂、総門を構えて、廻廊で繋ぐ曹洞宗寺院伽藍の典型のひとつであることやそれぞれの建造物が改造されることなく、現在も創建当時と同様に茅葺屋根で保存し、地方の小藩（黒羽藩一万八千石）の菩提寺として高い歴史的価値が認められましたことは、地域の人々や檀信徒のご先祖の厚い信仰心から寺院の維持・保存に理解と協力をいただきました賜物であります。

「創業は易く、守成は難し」と昔からのことわざがあります。何事においても新しく始めることは容易であるが、引き継いで衰えないように守ることは難しいということがあります。幾世代を引き継ぎ、守り続けてきた先人たちの智慧に学び、素朴で心安らぐ佇まいを大切に、今後も貴重な文化財として後世に伝え、これからも保存・維持そして活用に努めていきたいと決意を新たにしています。

## 大雄寺建造物の維持と保存の

### 取り組みについて

大雄寺は、栃木県北部の那須、大田原市（旧黒羽町）にある曹洞宗の寺院であります。今から六百年前、応永十一年（一四〇四）余瀬白旗城内に創

建され、文安五年（一四四八）黒羽藩主第十代大関忠増により再建、その後、天正四年（一五七六）、第十四代大関高増のとき、本拠黒羽城を余瀬白旗城から現在の黒羽城址の位置に移されるにともなって大雄寺も現在地に移転し、在室玄隣大和尚を中興開山に迎え、黒羽藩主大関家歴代の菩提寺となりました。

江戸時代の大雄寺は、黒羽藩主大関氏の庇護のもとで寺の運営がなされ、主として大関氏の歴代藩主やその親族の葬儀法要を実施することを本務としていました。しかし、明治廃藩となり、菩提寺としての役割と庇護を失った大雄寺は、自力で維持管理していく道を強いられることとなりました。

明治以降、自力で維持管理をおこなってきた大雄寺は、大正九年（一九二〇）に、維持管理に係る団体（財団法人大雄寺保護会）を設立しました。この財団法人大雄寺保護会は、大正九年から昭和三十三年まで三十八年間、寄付金をもとに維持管理に関わる事業を実施してきました。

大正八年（一九一九）頃より、物価の高騰から、維持管理に必要な材料費が上がり、寺の経営が困難になり、伽藍の縮小・宝物の売却・寄付金の募集のいずれかの方策が検討され、寄付金の募集を行うことに決定したのであります。

大正九年より建物の維持管理を主に務めてきた保護会でありましたが、昭和三十三年に解散の決定がなされ、そ

の事由は、戦後の資金失効をきっかけに大きく傾き、厳しい状況を強いられ、きたことが理由とされています。

保護会解散後、大雄寺は祠堂金をもとに寺院維持を行うこととなり、その後、昭和四十一年（一九六六）に曹洞宗の方針により大雄寺護持会が結成されたが、この護持会制度は、建造物の維持管理を中心に行っていた保護会とは大きく違い、日常の維持管理に重点が置かれるものであったため、建造物の維持管理を長期的に推し進めるものではなかったであります。

本堂、庫裏、禅堂、総門、廻廊、鐘楼など全てに老朽化が進み、建造物の茅葺根の維持は困難となり、放置できない状況のなか、昭和四十二年経蔵・輪蔵が栃木県文化財指定を受け、昭和四十四年には本堂・庫裏・禅堂・総門・廻廊・玄関・鐘楼・御霊屋が栃木県文化財指定を受け、放置できない状況のなか、禅堂、鐘楼、本堂、廻廊、庫裏の順に文化財保存修理事業を積極的に行うことが可能となりました。文化財保存協会指導の下、解体、半解体保存修理が、昭和四十三年から平成三年までの二十三年間に渡り実施されました。檀信徒の特段の協力を得て、浄財や栃木県・大田原市（黒羽町）からの補助金を以て進められました。

明治維新から百五十年経った現在、大雄寺の建造物は、大幅な改造を受けず良好に維持・保存し、総茅葺き屋根を守り、当時の姿を今に伝えるものがあります。

ここで大雄寺の伽藍維持管理の経緯を「明治末期から県文化財指定まで」と「県文化財指定から現在まで」と大きく分けて具体的な建造物の修繕・修理の経緯を見ます。

### 建造物維持と管理の経緯

#### ① 明治末期から栃木県文化財指定まで

##### 本堂

明治40年	屋根東及び西側茅葺き替え
明治41年	箱棟付け替え
大正7年	箱棟修理 「暴風による破損の為」
大正14年	屋根東側茅葺き替え
大正15年	屋根西側茅葺き替え
昭和7年	壁塗り替え
昭和8年	屋根東側茅葺き替え 内陣模様替え
昭和13年	屋根西側トタン葺き替え
昭和17年	屋根西側差し茅
昭和18年	屋根東側差し茅

##### 御霊屋

明治45年	屋根茅葺き替え
大正7年	屋根葺き替え
大正14年	屋根葺き替え
昭和15年	屋根葺き替え
昭和19年	屋根葺き替え

##### 玄関

明治40年	屋根茅葺き替え
明治42年	屋根茅葺き替え
昭和12年	屋根トタン葺き替え

##### 庫裡

明治44年	屋根葺き替え
大正15年	屋根葺き替え
昭和4年	屋根葺き替え
昭和5年	屋根北側・西側屋根葺き替え
昭和6年	替え
昭和8年	屋根東側屋根葺き替え 台所修理
昭和11年	方丈の間外廊下建具入り
昭和12年	屋根南側茅葺き替え 箱棟修理
昭和16年	北側・西側トタン葺き替え
昭和19年	屋根北側・東側差し替え

##### 廻廊

大正8年	屋根茅葺き替え
昭和6年	屋根茅葺き替え
昭和13年	屋根茅葺き替え
昭和19年	修理
昭和23年	屋根茅葺き替え

##### 総門

大正元年	屋根茅葺き替え
------	---------

総門は廻廊と一体化しているので、廻廊葺き替えの際に同時に修理されていたと考えられる。

##### 禅堂

明治42年	屋根葺き替え
大正4年	屋根一部葺き替え
大正7年	屋根一部葺き替え
大正14年	屋根葺き替え
昭和6年	屋根北側差し替え
昭和11年	棟修理
昭和16年	屋根葺き替え
昭和18年	屋根北側茅葺き替え

##### 鐘楼

明治42年	屋根葺き替え
昭和2年	修理
昭和17年	屋根葺き替え
昭和18年	梵鐘供出

##### 経蔵

大正8年	屋根木羽（杉皮）葺き替え
昭和36年	輪蔵修理・網戸敷設

##### 山門

明治44年	屋根トタン葺き替え
-------	-----------

#### ② 栃木県文化財指定後から現在まで

昭和41年 住職交代（35代英龍和尚から36代良一和尚）

昭和42年 経蔵・輪蔵栃木県文化財指定

昭和42年 鐘楼改修 梵鐘寄付

昭和44年 本堂・禅堂・庫裡・総門・廻廊・鐘楼・御霊屋栃木県文化財指定

昭和43年 山道改修、新墓地造成

昭和45年 禅堂全面解体修理二か年継続事業

昭和46年 防災設備工事

昭和50年 本堂・御霊屋・総門・玄関・廻廊半解体保存修理三か年継続事業

昭和55年 研修道場 月光館新築

昭和57年 経蔵・輪蔵保存修理二か年継続事業

昭和63年 新庫裡新築、庫裡半解体保存修理三か年継続事業

平成元年 防災設備事業三か年継続事業

平成2年 永代供養堂新築  
平成3年 住職交代(36代良一和尚から37代良裕和尚)

平成5年 墓地内道路舗装工事  
平成6年 総門・廻廊茅屋根保存修理事業

平成7年 開創六〇〇年法要

平成8年 禅堂・鐘楼茅屋根保存事業  
平成10年 本堂保存修理二か年継続事業

平成15年 集古館新築

平成16年 屋外トイレ新築  
平成19年(平成21年) 建造物調査 文化庁

平成21年 庫裡・総門茅屋根保存修理事業

平成22年 廻廊・鐘楼茅屋根保存修理事業

平成23年 東日本大震災発生。経蔵・御霊屋震災修復事業

平成26年 山道改修・駐車場新設  
平成27年 月光館内トイレ等改修工事、建造物調査再開(文化庁による)

平成28年 「大雄寺の建築とその歴史的環境」として建造物調査報告書完成

平成29年 建造物調査報告書をもとに文化庁調査官による調査

国重要文化財指定への答申(5月19日) 建造物9棟の国重要文化財指定(7月31日)

記念事業大田原市主催(11月4日)

参考資料

- ① 伽藍萱葺家根萱替修繕見積 明治40年(大正3年)
- ② 職工見積綴 大正14年(昭和23年)
- ③ 財団法人大雄寺保護会議事録 明治40年(昭和41年)
- ④ 文化財指定「本堂・庫裡・禅堂・総門・廻廊・玄関・鐘楼・御霊屋」保存修理事業報告書 昭和42年(平成23年)
- ⑤ 月刊 文化財 平成29年8月

国重要文化財指定記念事業を開催 平成29年11月4日

平成二十九年十一月四日大田原市主催のもと大雄寺国重要文化財指定記念事業として、指定書の贈呈、記念講演、宝物収蔵庫(集古館)において宝物特別展示が開催されました。

指定書交付は、津久井富雄大田原市長より大雄寺住職倉澤良裕氏へ授与され、記念講演は、重要文化財(建造物)

大雄寺の文化財的価値について」と題して、文化庁文化財参事官(建造物担当)文化財調査官小沼景子氏が講演されました。

大雄寺の文化財としての価値として、次の四点について詳細に説明されました。

- 一 本堂と庫裏、禅堂、総門を構えて

廻廊で繋ぐ曹洞宗寺院伽藍の典型的ひとつ  
二 本堂と庫裏は平面や空間の構成に古い形式をよく継承している  
三 個々の建築年代に違いがあるが、近世を通じて整備された茅葺の建築群が良好に保存されている

四 近世曹洞宗寺院における地方小藩の菩提寺としての様態を示す  
この記念事業の一環として、大雄寺宝物収蔵庫「集古館」において十二点の寺宝の特別公開をしました。  
宝物の特別展示として、次の通りでした。

宝物収蔵庫「集古館」特別展示作品

No.	作品名	作者	年代
1	絹本淡彩 広凌観瀾図	小泉 斐	
2	紙本墨画 楊柳観音図	小泉 斐	文化3年(1806)
3	黒羽城郭図		
4	大関高増像		
5	経蔵 新造棟札		享保17年(1732)
6	経蔵 再興棟札		寛政9年(1797)
7	木版一切経(一部)	明・清の経山寺版	慶長13年(1598)~正徳2年(1712)
8	西園雅集図	賛 大関 増儀、画 小泉 斐	天保9年(1838)
9	向陽亭十二景詩	大雄寺13代住職 廓門貫徹、嵐山道昶 作の漢詩	元禄12年(1699)
10	黒羽家中屋舗絵図住居名		天保9年(1838)
11	黒羽藩主大関家紋入り鎧・兜		寛政9年(1797)
12	雲版(拓本)		応永22年(1415)

# 花と禅

平成29年5月5日

毎年五月五日（こどもの日）は大雄寺のすべての建物で様々な催しが行われます。今年は本堂で音楽コンサートが開かれ、廻廊では小林悦子氏の木版画展、坐禅堂では坐禅体験、月光館ではヨガ、境内では拝観や甘茶のふるまいがありました。参道の両脇には白いシャガの花が咲き、境内の牡丹やハン

カチの花は満開でした。コンサートでは渡邊多佳子氏、穂山ふみ氏、地代所悠氏によるヴァイオリンとピアノとコントラバスの演奏が盛り上がり、非常に和やかで優雅な演奏会となりました。また今年もこどもの日に自然・芸術・宗教・文化・歴史が詰まった一日を予定しております。ぜひ足をお運びください。



# 大雄寺あじさい茶会

平成29年6月25日



道の大切な心が表現されており、お互いの心が道具に表れ、動作に表れ、その時だけの特別な空間と時間を形作っていきます。このお茶会は初めての方も子連れの方もやさしく迎えてくれます。是非今年も紫陽花の咲くころ茶室まで足をお運びください。

黒羽では紫陽花まつりが六月十七日から七月九日まで開催されておりました。那須塩原駅からシャトルバスもしており、この時期は県外からも多くの方が黒羽に足を運びます。この時期になると大雄寺茶室でお茶会が開催されます。今年は六月二十五日に東京の社中の皆様がお茶をたててくださいました。年々おいでくださる人数も増え、今年は約七十名もの方がいらっしやいました。今年の茶席のお菓子は東京のいいたばし萬年堂の「ありが糖う」というとってもかわいいお菓子を出品してくださいました。

お檀家様でもあるお茶の先生、三田富子氏の著書『お茶の技は心のかたち』には「人をもてなし、人にもてなされるとき、心が第一である」と示されています。もてなす側だけでなく、もてなされる側も心を込めていただくという、茶





夏休みになると小学生たちが大きな荷物を背負い、大雄寺の門をくぐります。

お父さんとお母さんから離れ、子供たちだけでお寺に一泊する日です。

食事の準備から寝具の片付け、掃除も子供たちで行います。協力しないといけないこともたくさんあります。普段は行わない坐禅やお経を唱えたりもします。静かな場所で注意散漫な心が

少しずつ落ちついてくる経験をし

ます。今年には県内外の小学一年生から六年生まで、二十八人が参加しました。また来年も六月ごろホームページにて募集をします。ご参加お待ちしております。

問合せ 倉澤 文亮

☎〇二八七―五四―〇三三二



【子供たちの声】

●僕は前回来たときは飯ごう炊飯では穴を掘ってもらって遊んでばかりだったけど、今回はしっかり協力出来てよかったです。煙が目に入って涙が出てきたけど、ご飯が炊けたときはうれしかったです。僕はもっと寺スクールに行きたくなりました。(小6男)

●おもしろ体験で、長いスプーンを使い地獄と極楽の話聞きまし。坐禅などもたくさん覚えることができました。家でもやってみたいです。また来年もきます。(小3女)

●ながいスプーンでゼリーをともだちに食べさせてあげました。みんなでごはんをたきました。太鼓をたたいたりしました。友達とも楽しく遊びました。坐禅の座り方は簡単でした。(小1女)



## ●●●●● 位牌ってなに？ ●●●●●

### ★ 位牌ってなんですか？

お位牌は故人をご供養するために、手を合わせる対象となる仏具です。お位牌の表にはご戒名が記され、裏に俗名・年齢・死亡年月日などが記されます。普段はお家のお仏壇にご本尊様と共にお祀りし、お手をお合わせください。回忌供養など、ご法事をされる際はお寺の本堂にお祀りしご供養いたします。

### ★ お位牌は種類があるの？

位牌は大きく野位牌、内位牌に分かれます。野位牌は白木でできた位牌で、亡くなってからすぐ準備します。大雄寺の場合、納骨の際にお遺骨と一緒に納めます。内位牌は日常、手を合わせる対象として常時仏壇などにお祀りしているお位牌です。一般的に49日後に白木の位牌から塗りの黒位牌（本位牌）に変えます。変える際は新しいお位牌の開眼供養を営み、白木のお位牌はお寺で預かります。

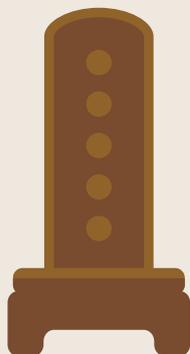
### ★ 新しい位牌は仏壇の右と左どちらにおまつりすればいいですか？

まず、お仏壇で最も大切なのは、お仏壇の中心をご本尊様（お釈迦様）にすることです。その為、お仏壇の上段中央に、お釈迦さまの像または軸をおまつりします。そしてご先祖のお位牌は、お釈迦さまの左右におまつりします。古いお位牌は向かって右に、新しいお位牌は左におまつりします。

### ★ お仏壇に位牌が沢山あります。古い位牌はどうすればいいですか？

通常、家の仏壇は、基本的にお位牌を2つ祀ることを想定して作られています。そのため、お位牌が3つも4つにもなったとき、仏壇が煩雑になってしまいます。

お位牌が多くなった場合には、「繰り出し位牌」や「過去帖」にまとめることができます。繰り出し位牌は戒名を記す中板が10枚程度入る箱に台座がついているお位牌です。また、過去帖は故人の戒名や俗名、死亡年月日などを記すことのできる帳面です。いずれのまとめ方をしても新しいお位牌は残し、他をまとめる事が望ましい方法です。



その他お位牌や仏壇に関して相談や疑問がありましたら、電話やメールでもお問い合わせください。

ホームページ： <http://www.daiouji.or.jp/>

メール： [daiouji@helen.ocn.ne.jp](mailto:daiouji@helen.ocn.ne.jp)

電話：0287-54-0332

## 個人禅修行

個人禅修行では作務、坐禅、写経、読経の修行体験ができます。

坐禅の作法等の説明を行いますので、坐禅を初めてされる方も安心して参加できます。

また写経では半紙に経文を写し、読経後、袋に入れオリシナルの御守りとしてお持ち帰りいただけます。

スケジュール  
13:30～17:15



## 写経会

毎月第1火曜日 午後1時～

## 読経会

毎月第1火曜日 午前9時～

## 平成30年の主な行事

1月1日より	初詣
2月3日	節分会
3月15日	白旗不動尊大祭
3月18日～24日	春彼岸会
5月上旬	牡丹開花
5月8日	花祭り
6月8日	大般若法会
8月13日～16日	盂蘭盆会
9月20日～26日	秋彼岸会
10月1日	大施食会
12月18日	観音祈願納経法会
12月31日	除夜法会

## 日曜坐禅会

毎月第2・第4日曜日 午前7時30分～

7:30 止静（坐禅開始）  
8:15 作務（清掃）  
8:30 下山または茶話会

## ご詠歌教室

毎月第2・第4水曜日 午後1時30分～

# お墓掃除スタッフ募集

大雄寺では遠方または高齢の為、墓地清掃が十分にできない方の為に山内墓地清掃を行っております。この度、依頼されている墓地のお掃除スタッフを募集します。

- 資格：●大雄寺檀家の方 ●年齢70歳未満の方 ●男女不問
- 人数：5名程度
- 内容：墓地の草とり、落ち葉とり、簡単な枝落としなど
- 場所：大雄寺山内墓地
- 期間：●平成30年8月6日～8月10日 お盆前  
●平成30年9月12日～9月16日 秋彼岸前  
●平成31年3月10日～3月14日 春彼岸前
- 時間：午前7時～正午（5時間） ※途中休憩あり
- 賃金：時給1,000円～
- 申込期限：定員になり次第締め切ります。



問合せ先

黒羽山 大雄寺 ☎ 0287-54-0332